

Title	「福祉のこころを育む：スーパービジョン体験 バイジーとして、バイザーとして」報告：第14回ピア・スーパービジョン[第一部のみ]共催(2014年度 第1回福祉のこころ研究会)
Author(s)	相川, 章子
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.24No.2, 2015.1 :19-19
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5260
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

2014年度 第1回福祉のこころ研究会 「福祉のこころを育む～スーパービジョン体験～ バイジーとして、バイザーとして～」報告 (第14回ピア・スーパービジョン [第一部のみ] 共催)

2014年10月11日(土) 爽やかな秋晴れのなか研究会が開催された。講師には、聖学院大学総合研究所スーパービジョンセンター創設時からスーパーバイザーとしてご尽力いただいております。現在は鳥取県境港市にて社会福祉法人養和会指定障害福祉サービス事業所F&Y境港所長である廣江 仁氏をお迎えし、「福祉のこころを育むスーパービジョン体験～バイジーとして、バイザーとして～」と題して発題(講演)して頂いた。また、本発題は「第14回ピア・スーパービジョン 第一部スーパーバイザー講演」と共催にて開催された。

当日は、卒業生、在校生、地域事業所職員ら19名ほどが参集し、講演に耳を傾けた。

まず、「『福祉のこころ』とはなにか」について紐解くことから始まった。その緒として、「与えあうかわりをめざして」(聖学院大学出版会)のなかの阿部志郎氏、長谷川匡俊氏、濱野一郎氏それぞれの「福祉のこころ」の定義を紹介し、3者共通に使われている「共」という言葉から、「共にあること」「共に生きること」こそが「福祉のこころ」であるとした。時代は変わり、時代とともに社会も変わり、私たちが変わるなかで、「よりよく共にある」ためには確認作業としての自己研鑽が不可欠である。その一つがスーパービジョンであり、自身の今を支えているのはこれまでのスーパービジョン経験であるとし、これまでの経験を振り返られた。精神保健福祉士として都内精神科病院にて8年、作業所等にて12年、そして現事業所(鳥取県)にて5年と豊富な現場経験に加え、本学をはじめ大学や専門学校等での非常勤講師の経験もあり、そのなかでのバイジーとして、バイザーとしての豊かな経験を丁寧にご語られた。

そのうえで、バイザーとバイジーは相互に変容が起き、共に成長するプロセスであり、バイジー

のみならずバイザーも共に元気になる時間であると話された。そしてもっと気軽にスーパービジョンが受けることができるようになることを望んでいると締めくくった。

廣江氏のぶれない実践は、このようなスーパービジョンを通して積み重ねられてきた自己研鑽のうえにあることを改めて感じた。私は廣江氏とともにグループ(ピア)スーパービジョンを一年ほどご一緒させていただいたことがある。日頃忙しさのなかで流され、考えることを避けてしまったことについてふと足を止めて、共に考える時間であり、はっとさせられるような刺激的な時間であったことを振り返り、今私が仕事をしていることを支えたバイジー体験であったことを思い出した。



発題者：廣江 仁講師 (上段)
研究会風景 (下段)

(文責：相川章子 [あいかわ・あやこ] 聖学院大学 人間福祉学部人間福祉学科教授)